



特別の教科 道徳 授業実践『最後のおくり物』

本時のねらいは、「俳優を目指す貧しいロベエヌとロベエヌを気遣い応援するジョルジュじいさんの姿を通して、親切に対する人間の弱さや、親切のよさに気付かせ、相手の立場に立って親切にしようとする心情を育てる。」であった。

これまでの実践を振り返ると、子どもたちの道徳的諸価値に対する考えがホワイトボードに羅列されるが、ねらいである道徳的諸価値の理解に関する垂直的な深まりを見せない授業展開に課題を感じた。その要因は、教材の特質を生かした道徳的価値を理解していくために必要な教材の把握が曖昧になっていることや、ねらいの設定が抽象的なものに留まっていること。また、こちらが深く考えさせようとする思いがある一方で、子どもたちの考えを深めていく発問の精選が足りなかったり、考えが深まらないうちに授業を展開させてしまったりすることで、道徳的諸価値に対する深い理解へと結び付かないことが考えられた。そのため、子どもたちにとって「すでに分かりきっている」理解から、新しい価値の気付きがある授業展開につなげていくための事前の準備が必要であった。

本実践では、教材「最後のおくり物」の学習を通して、子どもたちの道徳的価値の理解を促すために、教材の状況を子どもたちが理解できるようにした上で意図を明確にした発問を行った。その手立てとして、①「教材の理解につなげる発問（登場人物の状況や心情）」を行い、教材を把握し、考えていく土台を揃える。②「人間の弱さを理解することにつなげる発問」を行い、相手の「親切、思いやり」に関する行動に慣れしてしまうことで、つい当たり前のように思ってしまうことがないかどうか考えていく。その上で、中心発問を投げかけ、登場人物の「親切、思いやり」がもたらすよさに気付いたり、実現させる難しさについて考えたりしていく。また、自分の考えを広げたり深めたりするために、③「友達の意見に対して共感、質問を視点にコメントを入れる時間」を設け、他者理解へとつなげていく。 の3点を設定した。

これらの手立てを通して、本時の内容項目である「親切、思いやり」に関する道徳的価値の理解を促していくことを目指した。そして、価値理解、人間理解、他者理解を基に教材にある価値の意味に気付き「親切、思いやり」に関する価値にこれまで以上に引き合わせていくことにつなげていくことをねらった。



導入時に「親切、思いやり」に関する個々の考えをもち、共有することで、本時の方向性を示した。

親切にする時、どんな思いをもっているか？

- ・喜んでほしい。
- ・後ろ髪を引かれる。
- ・迷惑をかけないように。

おくり物が届かないことに対するロベエヌの自分本位な思いに共感することで、人間がもつ弱さに気付くことができるようにした。

おくり物が届かなくなり、思わず唇をかむロベエヌはどんなことを思っていたか？

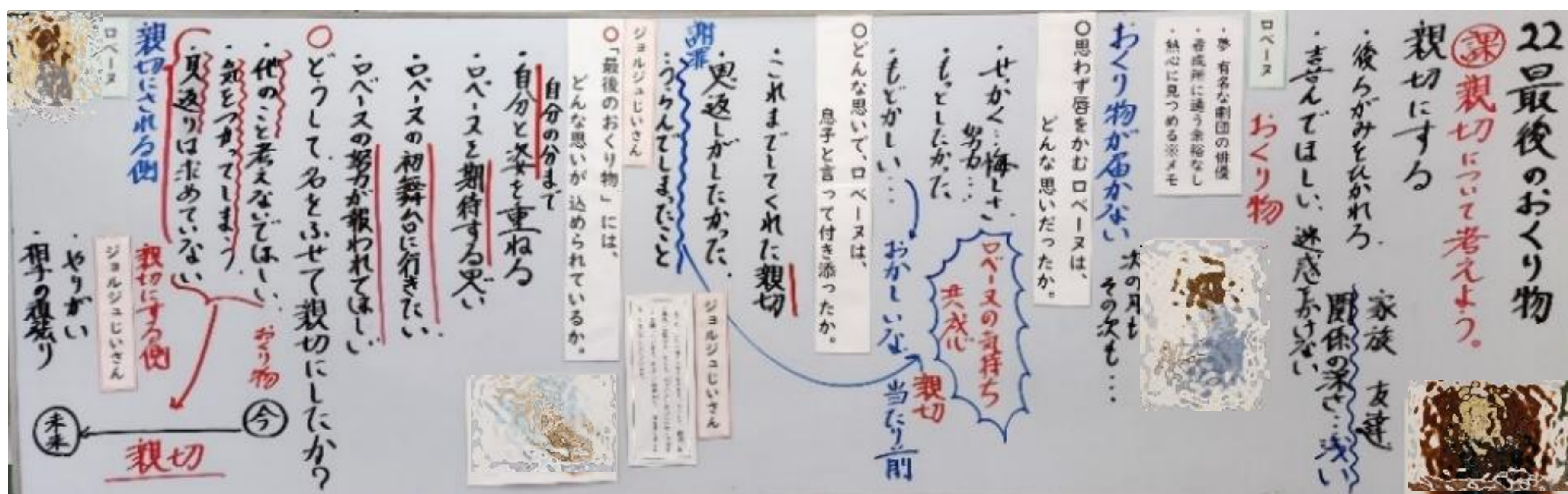
- ・せっかくここまで来たのに悔しい。
- ・もっと劇団で練習がしたかった。
- ・なんか、もどかしい。
- ・ロベエヌの気持ちは分かる。

でも、その考えはおかしいのでは。

ジョルジュじいさんに対する思いについて考えることで自分本位に考えてしまったことへの後悔の気持ちや、相手の親切に気付くことができるようにした。

どんな思いをもってロベエヌは息子とやって付き添うことにしたか。

- ・これまでしてくれた親切に対する感謝。
- ・恩返しがしたかった。
- ・恨んでしまったことに対する謝罪。
- ・親切にしてもらっていたことが当たり前になってしまっていたなあ。



ジョルジュじいさんの視点で考えていく補助発問をすることで、相手の立場に立って考えるよさや、実現させる難しさに気付くことができるようにした。

ジョルジュじいさんの『最後のおくり物』には、どんな思いが込められているか。

- ・自分と姿を重ねている。（自分の分まで）
- ・ロベエヌを期待する思い。
- ・ロベエヌの初舞台に行きたい。
- ・ロベエヌの努力が報われてほしい。

補助発問①

どうして、名を伏せて親切にしたか？

- ・ロベエヌに他のことを考えないでほしい。
- ・ロベエヌが気を遣ってしまうから。
- ・見返りを求めていないから。
- ・先のことまで含めて親切だから。

補助発問②

どうして、ジョルジュじいさんは幸せなの？

- ・ロベエヌが成長していく姿を見て、やりがいを感じていると思う。
- ・俳優を目指すロベエヌの頑張りを見て幸せだったと思う。
- ・自分のことのように思い、嬉しかった。

子どものノート

「思いやり、親切」に関する考えを記述させ、本時で気付いた価値について見つめることができるようにした。



本実践のねらいを達成するために、道徳的価値に含まれる価値理解、人間理解、他者理解に関する子どもの姿を以下のように整理した。

価値理解…価値のよさ、価値の大切さ

- ・親切は、相手の立場に立つことが必要だなあ。
- ・親切にする側の思い（喜び）もあるんだなあ。

※主発問を通して考えを聞くだけでなく、意図的な補助発問をすることで理解を深めていく。

人間理解…人間の弱さ

- ・相手の親切に慣れしまうと、つい当たり前のように思ってしまうなあ。（感謝）（親切、おもしろい）
- ・関係が浅いと難しいなあ。（親切、おもしろい）
- ・相手のことを考えているかなあ。（親切、おもしろい）

※批判ではなく、自分のこととして考えていく。

他者理解…多様な考え

- ・自分とは違うけど、その考えも分かるなあ。

実践を終えて

本実践で取り扱う道徳的内容は、第5学年及び第6学年の「B－（7）親切、思いやり」にあたり、「誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること。」である。導入では、「どんな思いで親切な行動をしているの？」に関する自分の考えをもつことで、本時のねらいの方向性を示した。展開では、おくり物が届かないことに対するロベエヌの自分本位な思いに共感することで、人間がもつ弱さに気付くことができるようにした。また、ジョルジュじいさんに対する思いについて考えることで、自分本位に考えてしまったことへの後悔の気持ちや、相手の親切に気付くことができるようにした。本時では、親切な行動に対して当たり前と感じてしまうことへの共感と反省に関する子どもたちの意見の交流が見られた。その上で本時の中心発問「ジョルジュじいさんの『最後のおくり物』には、どんな思いが込められているか。」を問いかけた。そして、意見を共有する中で、子どもの多様な考えを羅列することに終始せず子どもたちの道徳的価値の理解をさらに促すために、補助的な発問を行い道徳ノートに書く時間を設けると共に、友達の考えに対する自分の意見を付箋に書く時間を設定することで、「親切、思いやり」に関する価値について自分の考えを広げたり深めたりできるようにした。友達の考えを受け止め、自分の意見を伝える時間は付箋に書かれている内容や発言から、広い視野で価値について考える時間となったのではないかと考える。

本実践では、子どもたちにとって「すでに分かりきっている」理解から、新しい価値の気付きがある授業展開につなげていくことができた。本時の教材で考えることができる価値理解、人間理解、他者理解について整理、分析することの重要性を改めて実感した。ただ、授業展開において、道徳的価値を理解していくことに偏りが見られる授業展開になってしまったことが課題である。今後、教材分析はもちろん発問の精選に加え、発問に用いる「言葉」にもこだわりながら、道徳科の時間において、どうすれば、これまで以上に道徳的諸価値に子どもたちが向き合うことができるのかを分析し、今後の実践につなげていきたい。

